

## はじめに

本市が平成5年度から実施している非核平和事業「広島平和の旅」も、今年で28回目となりました。

原爆投下から78年目の夏を迎えた今年は、市内4中学校で「原爆パネル展」と非核平和学習を行い、これをもとに非核平和作文コンクールを実施しました。そして、全ての中学2年生の中から最優秀賞を受賞した8名の生徒を、8月5日から7日までの日程で広島に派遣しました。

この旅では、原爆が投下された8月6日に行われる平和記念式典への参列のほか、被爆者の方から直接体験談を聞いたり、平和記念資料館や原爆ドームを見学したりしました。生徒の皆さんは、被爆地広島での貴重な体験を通じて、今まで学校で学んだこと以上に、戦争や原爆の恐ろしさ、そして平和の大切さを身にしみて感じたのではないかと思います。

また、広島を訪れる前に比べて、一人ひとりが『2度と戦争を起こしてはいけない』という気持ちをより一層強くしたのではないのでしょうか。

今回広島を訪れた8名の中学生が感じた想いをここにまとめました。この想いをいつまでも忘れずに、平和への取り組みを今後も続けていきましょう。

令和5年9月  
茅野市 総務部 総務課

---

## 目 次

---

ページ

東部中学校	2年2組	名取 遥	広島平和の旅を終えて	2
〃	2年3組	藤井 結菜	恒久平和のために	3
長峰中学校	2年1組	林 すみれ	実際に見たからこそ感じるもの	4
〃	2年2組	名取 宥翔	伝えていく	5
永明中学校	2年1部	若林 陸	人らしく生きるために	6
〃	2年3部	濱 柚季	どんなに小さなことでも	8
北部中学校	2年2部	工藤 綾華	私が知った原爆のこと	9
〃	2年3部	江尻 詩乃	戦争の全てを知った“今”感じている事	10
平和への誓い（令和5年広島平和記念式典より）				11

## 広島平和の旅を終えて

東部中学校 2年2組 名取 遙

この広島への旅を通して、特に印象に残っていることは3つあります。

1つ目は、資料館を見学した時のことです。人種や年齢も様々な多くの人々が、資料館を見学していました。館内では、絵や当時の写真、遺品などが多く展示されていて、私はそれらの展示物を見て悲しい気持ちでいっぱいになりました。写真や遺品を見ていると、原爆で亡くなってしまった人々の苦しさや悲しみの声が聞こえてきそうに感じて苦しくなり、目を背けたくなりました。辛かったけれど、かけがえのない経験でした。そして、できればたくさんの人に見てほしいと思いました。

2つ目は、元安川で行った灯籠流しです。2人で1つの灯籠を作り、夜に火を灯して川に流しました。2人で協力して絵やメッセージを考え、灯籠を作ったことはとても心に残っています。平和への願いがこめられた灯籠が1つ1つ輝きながら川を流れていく様子はとても美しく、感動しました。灯籠に灯った火は消えてしまうけれど、たくさんの平和への願いは消えずに届いてほしいと強く思いました。

3つ目は、「8・6証言の集い」で被爆者の方のお話を聞いた時のことです。今回話してくださった方は、2歳の時に被爆され、家族から聞いた当時の出来事を私たちに話して下さいました。そのお話の中で特に「何もできなかった」「助けられなかった」という後悔の言葉に胸が痛くなりました。大切な人や家族が生きていることは、決して当たり前などではなく、とても幸せなことだと改めて感謝する気持ちがわいてきました。

そして個人的な思い出としては、今回の旅で曾祖母と曾祖母の父がいた広島に行くことができたことが嬉しかったです。曾祖母の父は国鉄の職員で、戦後に広島駅で駅長を勤めていたという話を祖母から聞いていて、1度は行ってみたいと思っていました。広島駅や市内を周り、親せきが暮らしていたかもしれない当時を想像したり、自分の目や体で感じたりすることができて良かったです。

この旅で戦争や核に関する多くのことを学んだり感じたりすることができました。今の広島には多くの人々が暮らし、多くの建物が建っています。しかし78年前の広島は、たった1発の原爆で多くの犠牲者が出て、荒地となってしまいました。2度と同じことを起こさないためには、自分には何ができるか、どうしたら核兵器のない世界になるのか、正直、今すぐ答えることは難しいです。でも、私1人に行えることは少なくとも、多くの人にこのことを知ってもらうことができればきっと、知った人は皆、平和への願いを持ってくれるのではないかと思います。そのための1歩として、私は友達や家族、クラスの人などにこの旅で学んだことや感じたことを伝えていきたいです。

## 恒久平和のために

東部中学校 2年2組 藤井 結菜

私は、8月5日から7日までの3日間、学校代表として、広島平和の旅に参加させていただきました。その中には、数多くの思い出や、印象に残る出来事がありました。

1日目は、宮島に行き、厳島神社を見学しました。宮島には野生の鹿がたくさんいました。鹿は紙や布を食べるので、触ったりできない状態でした。

2日目は、平和祈念式典に参加させていただいたり、8・6証言のつどいに参加し、実際に被爆した方のお話を聞きました。平和祈念式典では、全国各地から学生が集まり、日本のみならず、世界のいろんな国々から人が集まっていました。私は、子ども代表の方の平和への誓いに、心を打たれました。自分より年下の小学生が平和について本当に真剣に考えていて、このような人たちが未来の日本を引っ張っていくのだろうなと思いました。8・6証言のつどいでは、2歳のときに被爆された方のお話を聞きました。原爆が投下されたときは、私たちには想像できないくらい悲惨だったということを改めて実感しました。そして、原爆が投下されたときは、痛さや怖さだけではなく、「なぜ自分が生き残ってしまったのだろう」「なぜ仲間や家族を助けることができなかったのか」という、後悔や罪悪感による苦しみがあったことを知りました。

3日目は、原爆資料館を見学したり、原爆の子の像の近くに、折り鶴を捧げました。原爆資料館には、当時の写真や遺品が展示されており、それらはどれも、当時の惨劇の情景が浮かんできたり、当時の被爆者の声がまるで吹きこまれているように感じるものばかりでした。そして、見学をしている人の約半分ほどが外国人の方方で、世界は平和に向かって少しずつ進んでいると感じました。原爆の子の像は、2歳の時に被爆し、十年後に白血病で亡くなった、佐々木禎子さんがモデルとなっています。禎子さんは、願いが叶うようにと鶴を折り続けました。このことから、像の近くには、折り鶴がたくさんの人によって捧げられています。私たちも、学校で作った千羽鶴を、恒久平和を願って捧げました。

この3日間を通して、他校の人たちとコミュニケーションを取って友達を作ったり、平和とは何か、自分の目で見て考えることができました。私がこの3日間で考えた平和とは、楽しいことだけではなく、辛いことや悲しいことも仲間と乗り越え、それをきっかけに幸せが生まれることです。辛いことや悲しいことを乗り越えた先の幸せは、ただの幸せよりよっぽど価値のあることだと思います。永久に平和が続く恒久平和のために、自分たちができることを果たして、2度と戦争が起きない世の中を作っていきたいです。

## 実際に見たからこそ感じるもの

長峰中学校 2年1組 林 すみれ

今回、広島平和の旅に参加させていただき、8月の5日から7日まで、実際に原爆がおちたその地へ行き、目で見、肌で感じてきました。実際に見たり、聞いたりするとやはり、自分には想像できないような、悲しく残酷な過去だと、感じました。

広島平和の旅の初日では、宮島、厳島神社へ行き、教科書や、テレビでしか見たことがない鳥居を近くで見ました。近くで見ると、とても迫力があり、すごく綺麗でした。宮島から帰る頃には、最初の集合をした時より、皆が少しずつ打ち解けており良い雰囲気になっていました。

広島平和の旅2日目では、平和式典に参加し、8時15分には、原爆死没者の方に黙祷を捧げてきました。式典の中にあつた小学6年生の「平和への誓い」の言葉にすごく心打たれました。平和への思いを1つにし、原爆がおちた日の事、被爆者の方が思っていること、話してくださった事を伝えていかなければならないと感じました。

2日目のお昼は、広島といたらお好み焼き、ということで、本場のお好み焼きを食べました。やはり、自分の家で食べるお好み焼きとは別格で、とても美味しかったです。

それから、「8・6証言の集い」を受け、直接被爆者の方のお話を聞きました。どの場面でも、とてもとても心が痛くなり、被爆者の方がどんな場面で、どんな思いをしていたのか、頭にその風景が自然と入ってきました。私の想像していた何倍もの苦しみがあったんだと、戦争をしては本当にいけないんだと、考えさせられました。

夜には、灯籠に、平和への願いを書き、思いをこめて灯籠を流してきました。

広島平和の旅3日目では、まず始めに、原爆の子の像へ行き、2学年全員で一生懸命、心をこめて作った千羽鶴を捧げてきました。

その後、広島平和記念資料館へ行き、当時の風景、原爆の熱によって焼かれたお弁当箱、小さい子の服など、見るだけで原爆の恐ろしさが伝わってきました。全身火傷で苦しんでいる写真や、ガラスが目にはささり、目が見えなくなっている人、覚悟した上で見ても、とても衝撃的すぎました。資料館で見た光景は今でも忘れられません。

この3日間、たくさんの思い出があり、平和について改めて考えました。今回、経験したことは、友達、家族、いろんな人に伝えていきます。この広島平和の旅と一緒にってくれた、自分含め、8人の生徒と付きそいをしてくれた、先生、市役所の方に感謝し、これからの自分の日常生活から、もっと平和になっていけるように、今、自分にできること。友達に話す言葉を気を付けたり、態度を変えてみたり、自分にできることは、まだあると思います。そのできることを探し、たくさんの平和のために生活していきたいと思います。

## 伝えていく

長峰中学校 2年2組 名取 有翔

ぼくは広島平和の旅で3日間、広島で見て、聞いて感じた事があります。

原爆により、一瞬にして壊された町が今では綺麗で、豊かになって広島で原爆がおとされたとはあまり実感が最初はありませんでした。平和式典では、日本国内だけではなく、110国以上の国の人達が参列していました。

様々の国が、平和への強い想いがあるのだなと感じました。

被爆者の証言では、被爆してもやけどにつける薬もなく、水を何度ほしがっても中々水が手に入れることもできず、麦飯が配られる時は、食べることもしないのに我先にと大きいものを取る。チョコレートの小さな1切れをもらうだけでもうれしかった。と伝えられました。この話を聞いて僕は、このような思いをする人、またはそれ以上の人がいると思うと、心がしめつけられる気がしました。

「被爆者」だけでなく、原爆によって「被災者」もいます。原爆によって気象をよむ装置が壊れ、大きい台風が来ても避難できずに被災し亡くなる人もいました。原爆によっておとされる瞬間もその後に出る大きな影響もあってすごく驚きました。

知らないことが聞けてとてもよかったです。

平和資料館にも行ってきました。平和資料館では、見て感じとれるものが沢山あり、中で原爆がおとされた時の広島市の写真で原爆ドームを見つけ、当時の光景がうかんできました。そして被爆者の方々の平和への小さくて、とても大きい願いが記されており、ぼくは、なにかこみ上げるものがありました。

資料館には多くの人がいました。ですが決して騒ぐことはなく、じっと1つずつ資料を見ていました。すごく静かで重く、緊迫とした空気だけが漂っていました。

すべて1通り終わり、ホテルへ荷物をとりに向かう道中、原爆ドームに目を向けると、最初に見たときと全く違う風に感じとれました。もう終わる旅の景色と、平和になるようにと想いを背負っている原爆ドームが見えました。ただ歩いているだけのこの道もどんな想いがこめられて造られているのでしょうか。

「今は、戦争の重さを理解していない子が増えている。」伝える人も減っている。

被爆者からの話を聞いてどうすればいいのか考えました。戦争を体験していないぼく達はどうぞせばいいのか、この旅で何を体験したのか、この大切な想いをいろんな人達に、言葉で表せられるように。伝えられるようにしていきたいです。

苦しい過去にしばられず、懸命に生きる。可能だろうか。そのような生き方は。広大な海。美しい街。活気あふれる人々。広島の地に足を踏み入れ様々な美景や人との出会いによって素晴らしい場所であることを実感した。「唯一の被爆地」であることを忘れてしまいそうな程。終戦のあの日から、長い年月をかけて復旧復興を続けてきたため現在の広島があるのだろう。しかし、悪夢のような現実を目の当たりにして、すぐに前を向いて行動できるのか。私は無理だ。自分にとって苦痛な出来事があった後、精進することなど……。

2日目。『証言の集い』という集まりで、被爆者の方の話を直接聞くことができた。証言者のAさんは当時2歳で被爆。原爆投下前、母に背負われながら電車に乗車していたそうだ。次の瞬間、車内を激しい閃光がつかぬいた。ボロボロの車体。ガラスが体に突き刺さった人。臓器が向き出しになった者。一瞬にして変わってしまった。たった1つの爆弾によって……。Aさんの母親は、Aさんを抱えながら、人間の死に方ではない者たちの死体の山をかいくぐり、目線を高くし必死ににげた。前途多難の世を生きたのだ。私は胸を焼かれるような感を覚え、目頭が熱くなった。己の人生とAさんの人生を比較すると、自分がどれだけめぐまれていることか身にしみて感じた。また、過去に起きた悲惨な出来事を細かく知り、戦争の恐ろしさを痛感した。

3日目。『広島平和記念資料館』にて、戦争の影響で変わってしまった日本の様子が鮮明になった。中でも、放射線による「ケロイド」という病気が印象的であった。人間の体が赤く盛り上がる様子を見ると、心が苦しくなった。更に、「死の斑点。」顔を始め、手足等に紅の斑が現れる。吐血しながら死んでいく様は私の脳に焼きつけられた。見学している最中、閲覧することがつらくなり途中早めに外に出てしまった。知見したことが実際に私たちが生きる地球で生じたと思うと、隠蔽してはならない事実であると改めて感じた。

戦争についての知識はあるものの、実態は理解できていなかったため、「戦争は悲惨なもの」程度の考えであった。今回、現地に足を運び広島原爆の真相を追求した。自分の知見や見聞を広げた上で戦争は、「言葉では表せない凄惨なもの」という新しい価値観が私の中で芽生えた。

「世界平和」を求めることは容易ではない。だからこそ、手近なところから平和に貢献していきたい。まずは、旅を通して経験したことやそれに基づいた自身の見解を友人達に伝えることから始めようと思う。加えて、争いごとが起きた場合は、武力での解決はせず自分と相手の意見を尊重するような打開策を推進していきたい。

私たちが存在するのは、往時に壊滅状態の世を復活させた者たちがいたからだと考える。苦い過去であろうとも勇気を出して復興をとげた人々が大勢いたからこそ今があるのだ。戦争は、心残りがある命たちを星の数程強奪した。許されない事実

である。だから私は、殺された無念な魂たちを心にとめ、現在の平和を懸命に築き上げてきてくれた人々の思いを忘れずに、どのような困難に遭遇しようとも昂然と生きていこうと思う。

この先も永遠に人が人らしく生きていけることを強く望む。

## どんなに小さなことでも

永明中学校 2年3部 濱 柚季

私は、今回の広島の旅で、宮島・平和記念式典・証言の集い・灯籠流し・平和記念公園見学など、様々な場所に行ったり、活動したりしました。

その中でも、原爆の話が強く印象に残っています。戦争への思い・実際に被爆した方の体験したこと、その一人ひとりの思いが、戦争についての悲惨さを物語っていました。

たった1発の原爆で、多くの人が亡くなってしまったり、被爆して今も苦しんでいる人も中にはいます。また、原爆によって傷付いた心は、とても深く、まだ苦しみを抱えている人もいます。

そして、原爆によって亡くなってしまった方へ、安らかに眠れますようにと、祈りました。黙とうには、深い思いが込められていると思います。なので、せめて、被爆してしまった方々が安心して眠れるように、祈りたいと思いました。

広島平和記念資料館では、目を背けたいようなものもありました。しかし、過去に起きてしまった出来事と向き合うのは、とても大切なことだと思います。なので、見るのがつらいところもありましたが、過去にこういうことが起きたのだと、しっかり受け止めていくことも大事だと思います。とても勉強になることも多かったので、見て、良かったと思うこともあります。

灯籠流しには、死者の魂が灯籠に乗って川を下り、海のかなたのあの世へ帰ってゆくという意味が込められているとの事です。これは、被爆してしまった方々が安心して帰ることができるように、このような活動はとても大切なことだと思います。

証言の集いでは、実際に知らなかった事実もあり、実際に体験したことや、当時の状況など、とても勉強になることが多かったです。

私は、今回の広島の旅を通して勉強になったことがたくさんありました。

もう、このような戦争は絶対、繰り返してはいけないし、もう、起こしてはいけないと思います。

なので、今の自分にできることをしていきたいと思います。私は、次の世代に、つなげていくことが大切だと思います。今の自分にできそうなことを、どんなに小さなことでも良いので、実行していきたいと思います。

普段から、相手の立場に立って、相手を傷つけないような言動をしていきたいと思いました。どんなに小さなことでも、相手に寄り添った考えをしていけば相手だけではなく、周りの人も自然と優しさの連鎖が広がっていくと思います。

まだ世界のどこかで、戦争をしている所があります。しかし、私たちができるどんなに小さなことでも、力がそろえば、何倍にもなります。皆で平和について、もう1度考えてみてみたいと思います。

## 私が知った原爆のこと

北部中学校 2年2部 工藤 綾華

今回は広島平和の旅に参加して、たくさんの知ったこと・感じたことなどがありました。その中で特に印象に残ったことがいくつかありました。

1つ目は黙祷です。平和式典に参加して、世界中の人たちと想いを1つにして、犠牲者を思うことができました。いままではテレビでしか見た事がなかった黙祷を実際に見てやることができ、とても貴重な体験でした。この貴重な体験をしたことを忘れずに、毎年8月6日になったら黙祷を捧げていきたいと思いました。

2つ目は実際に被爆者の方のお話を聞いたことです。事前に学校で平和学習をし、どんな被害があったのかは知っていたのですが、お話を聞いてみたら、その時の状況や心情などもっと深いところまで知ることができました。今では考えることのできない生活があったりしてもものすごく衝撃を受けました。今では簡単に手に入れられる水や食料が当時は手に入れることができずに多くの人が苦しんだことを知りました。家族の存在がとても大切で、命の大切さを知ることができました。そしてこのことから、核兵器たった1つでたくさんの人が苦しみ、当たり前な幸せが消えてしまって、こんな恐ろしいことが2度と起きなければいいなと思いました。これから先、この原爆を恐ろしさを体験した人たちはどんどん少なくなっていくと思います。ですが、これからは私たちが、この原爆の恐ろしさを伝えていく番です。だから今回聞かせていただいたことを実際に友達に話してみたいと思います。

3つ目は平和記念資料館の見学です。初めて資料館を見学しましたが、かなり印象に残りました。全体的に悲しみと怒りが伝わってきました。小さい子どもの写真を見たとき、無表情でなんだかすごく胸が痛くなりました。他にも絵や言葉を見ていくうちに、こんなに私は知らなかったのかと思いました。どの絵も言葉も写真も全部心に残っています。そのどれも忘れずにこれからも生きていきたいです。

今、世界ではウクライナ侵攻でロシアが核による威嚇をしています。ウクライナでは、たくさんの人が家族、友達を失って悲しんでいます。私が見て、聞いたあのような悲惨な状況にならないために、このような戦争はやめてほしいです。だれもが笑顔で仲良く生活ができる世界になるためには何が必要で大切なのかを、今回の旅で知ったこと、感じたことをもとにして、考えてこれからの生活を送っていけたらなと思います。

## 戦争の全てを知った“今”感じている事

北部中学校 2年3部 江尻 詩乃

今回、参加させて頂いた2泊3日の広島の旅では、これから先絶対に忘れることのない、深く印象に残ることをたくさん感じ、考えさせられました。

1日目の朝、とても緊張して茅野駅を出発しましたが、揺れる電車の中で、楽しく友達や先生と話すことができ、すぐに緊張がほぐれました。広島に到着し、宮島へ行くと、実際に1度も見たことのなかった厳島神社が目の前に広がっていました。想像をはるかに超える美しさに思わず魅了されました。

2日目は朝から平和記念式典に参列しました。平和宣言での広島市長さんや、広島県知事さんの挨拶、小学六年生の子ども代表による平和への誓いでは、テレビなどの画面越しでは感じる事の出来ないような、一人ひとりの想いが強く伝わってきました。それと同時に、2度と戦争はしてはいけない、と改めて感じました。その後「8・6証言の集い」で、被災者の方のお話をお聴きしました。現地の方の生の声を聴くと、自分が本当に戦争を体験したような気持ちになりました。夜になると、自分たちでメッセージや絵を書いた灯籠を流しに行きました。数えきれないほどの灯籠が穏やかに川を流れていく様子は、本当に綺麗でした。流す瞬間はほんのわずかでしたが、灯籠に込めた平和への思いが、少しでも被爆者の方々の心に届いていると嬉しいな、と思います。

3日目は平和記念資料館へ行きました。何から何まで戦争の全てを目の当たりにしたときは、息が詰まるほど衝撃的で、このようなことが本当に78年前に起こったのだと信じる事ができませんでした。焼け野原で1人残されたら生き地獄も同然。私だったら自ら命を絶っていたかもしれません。その中、必死で生きようとしていた方々がいた、ということを考えると、今、こうして当たり前のように生活できていることは凄く幸せな事なのだと、身に染みて感じました。

この旅は、1つの爆弾により多くの人々の命が奪われた戦争の恐ろしさをより身近に感じた3日間でした。2度と同じことを繰り返してはいけない、と強く感じ、そのためには、お互いを理解し、相手の気持ちを考えることが平和への第一歩になると思います。日常の中でも、思いやりのある行動を心がけたり、相手の気持ちを考えて言葉を発するなど、まず小さな変化から平和への意識を高めていきたいです。

## 平和への誓い（令和5年広島平和記念式典より）

みなさんにとって「平和」とは何ですか。  
争いや戦争がないこと。  
差別をせず、違いを認め合うこと。  
悪口を言ったり、けんかをしたりせず、みんなが笑顔になれること。  
身近なところにも、たくさんの平和があります。

昭和20年（1945年）8月6日 午前8時15分。  
耳をさくような爆音、肌が焼けるほどの熱。  
皮膚が垂れ下がり、血だらけとなって川面に浮かぶ死体。  
子どもの名前を呼び、「目を開けて。目を開けて。」と、叫び続ける母親。  
たった一発の爆弾により、一瞬にして広島のみちは破壊され、悲しみで埋め尽くされました。

「なぜ、自分は生き残ったのか。」  
仲間を失った私の曾祖父は、そう言って自分を責めました。  
原子爆弾は、生き延びた人々にも心に深い傷を負わせ、  
生きていくことへの苦しみを与え続けたのです。

あれから78年が経ちました。  
今の広島は緑豊かで笑顔あふれるまちとなりました。  
「生き残ってくれてありがとう。」  
命をつないでくれたからこそ、今、私たちは生きています。

私たちにもできることがあります。  
自分の思いを伝える前に、相手の気持ちを考えること。  
友だちのよいところを見つけること。  
みんなの笑顔のために自分の力を使うこと。

今、平和への思いを一つにするときです。  
被爆者の思いを自分事として受け止め、自分の言葉で伝えていきます。  
身近にある平和をつないでいくために、一人一人が行動していきます。  
誰もが平和だと思える未来を、広島に生きる私たちがつくっていきます。

令和5年（2023年）8月6日

こども代表 広島市立牛田小学校  
広島市立五日市東小学校

6年 勝岡 英玲奈  
6年 米廣 朋留